

産学連携で安全装置開発

送迎バスで園児が置き去りとなる事故が相次いだことを受け、川崎市内の企業が東京大学と産学連携で、置き去り防止装置を開発・商品化した。エンジンキーをオフにすると運転手に車内点検を促すアナウンスが流れ、点検終了後にボタンを押すだけというシンプルな設計。開発の背景には、車の安全に長く携わってきた企業として「事故をなくしたい」との思いがある。

(岡本 晶子)

防止 去り置きバス送迎

この会社は、日本ユーザー 点検をして警報を切つてくテック(同市中原区)。1 ださい」とのアナウンスが988年の創業以来、バックモニターをはじめとする車載機器の製造・販売を手がけてきた。

同社が今春、発売したのが置き去り防止装置「まもるくんA」だ。操作は至って簡単。エンジンキーをオフにすると、本体スピーカーから「車内



置き去り防止装置「まもるくんA」を手にする松波代表

川崎市中原区

川崎の企業「事故なくしたい」

るが、3分以上、警報が止まらなかった場合は、車内点検を促すアナウンスが車外のスピーカーからも大音量で流れる。車内待機モードの状態ですべて「たすけてぼたん」を押すと、「車にいます。助けてください」と大音量で車外に通知。走行中は園児が触れても作動することはない。車内に取り残されたときのみ、SOSを発信できる。

乗降時の安全にも配慮。乗降中は歩行者や自転車に注意喚起するアナウンスが流れるという。

園児が送迎バスに置き去りにされる事故が相次いだことを受け、国は安全装置の仕様に関するガイドラインを作成。今年4月から、幼稚園などの対象施設に設置を義務づけた。導入に当たり、1台につき17万5千円を上限に補助金を交付している。

「まもるくんAは」通信機能やサーパー設定は不要。ランニングコストもかからないのが特徴」と松波代表取締役。出張取り付け工事費や消費税も含め、補助金の範囲内で提供している。

詳細は、同社ホームページ。

神奈川新聞

THE KANAGAWA

2023年[令和5年]

7月28日[金]